

技術者ウォッチング

このコーナーは非破壊試験技術者として活躍されている技術者をご紹介します。

今回は末包享志さんにご登場いただき、会社ならびにご自身についてご紹介いただきました。

会社概要について（設立：平成9年4月18日）

事業内容：構造物の検査・探査・調査・診断業務
 本社：香川 営業所：岡山・広島・福岡・愛媛・島根
 総勢87名

社内でのレベル3など資格保有者数について

- ・日本非破壊検査協会（JSNDI）（保有者50名）
 総合管理・全種目レベル3取得2名、4種目レベル3取得1名、3種目レベル3取得2名、2種目レベル3取得3名、1種目レベル3取得4名、他レベル2及びレベル1取得延126名
- ・他23機関で、保有者77名が総数875個、1名平均10個以上を取得しています。私は「石橋を叩いて渡らなくても良いが転ばぬ先の杖は何本も用意しろ」で現在杖は30本保持しています。

私の業務内容・業務経歴(実績など)について

非破壊検査一筋で、大学卒業後に大阪の日本溶接検査(株)（現：日本インスペックス(株)）に昭和52年4月入社し各種プラント・海洋構造物の検査に従事しました。音響異方性が未公表の時の検査も経験しました。昭和58年12月に退職し、香川県の建築鉄骨非破壊検査が主体の日本溶接検査(株)（現在廃業）に翌年1月に入社しました。阪神淡路大震災が発生した春に呼ばれた JSNDIUT 指導員は大阪に行くことは出来ましたが、帰りの便が一日空いて天保山から出る高速艇しかなく待ちの一日で神戸まで遠出し散策しましたが、倒壊した鉄骨造の殆どが施工不良で、当時鉄骨の第三者検査を実施している身に衝撃でした。その半年後、阪神高速神戸3号線のPC構造物復旧工事（レーダ探査技術研究会）で日本超音波試験(株)（現：(株)ジャスト）の当時代表と各工事事務所回りをし、土木の現状を把握しました。その結果、一度しかない人生に悔いの無い仕事をと決心し、平成9年3月退職し4月に(株)ジャスト四国(代表取締役)を設立し、広島に営業所を出し、社名を(株)ジャスト西日本に変更し営業所を増やしつつ現在に至っています。会社設立後は「あらゆる構造物の検査・探査・調査・診断」を非破壊検査+αで進めています。現在は+αであるインフラ整備関連の調査・診断が割合を伸ばしつつあります。

自身の教育活動を含む社外活動について

- ・JSNDI 四国支部設立準備委員
- ・JSNDI U 専門委員会委員 講師・指導員
- ・JSNDI 超音波部門幹事
- ・JSSC 建築鉄骨検査実技講習 講師
- ・鉄筋継手検査業協会 四国支部長
- ・CIW 検査業協会 契約適正化推進実行委員
 中国・四国地区委員長
- ・四国職業能力開発大学校 JSNDI 関連外部講師



氏名：末包 享志（すえかね たかし）（65）
 所属：(株)ジャスト西日本 代表取締役
 保有資格(JSNDI)：総合管理技術者、全種目レベル3
 保有資格(JSNDI 以外)：CIW:検査技術管理者、
 上級検査技術者 R,U,M,P,E 部門、WES 特別級、
 コンクリート診断士、他合計30種類

非破壊検査技術者としての自負

高校生時代が国家資格に挑戦する環境であったことから資格取得＝仕事感が植え付けられました。社会人になって初めて非破壊検査を知り、5年ぐらいで特級（現総合管理）が取れるかなと安易に思いましたが実際には倍の10年かかりました。4種目1級の受験資格で特級を取得した後、故秋園先生の高松の講演会で「会場には特級が何名も来られているが検査会社の中には全種目1級の特級も何人も居る」を聞き、1年後には残りの2種目も1級を取得しました。溶接協会の溶接構造物非破壊検査事業者認定（CIW）を目指す一環で、同時に検査技術管理者及び全種目上級検査技術者を取得しました。溶接協会の30周年記念式典において15種類の資格保持者として12名中の1名として表彰を受けたのは良い思い出です。尚、このCIWは会社設立後に受け直して、今度はCIW認定A種を取得するのが目的で、14種目を取得して満足としました。結果的に検査会社2社をA種認定に育てた事になりましたが、感慨深いものがあります。

新卒採用活動で強く感じること

学生が望む企業は「給料が高く休日が多く残業が無く出張も無い」が条件であり、会社に入って資格を取らなければいけないのは嫌だと避けられるのが現実です。資格取得が大前提という非破壊検査業界が如何に生き残るか大きな課題があると判断しています。特に弊社では24機関(団体)の発行する資格を社員に取得させるよう教育・訓練をしていますが JSNDI 資格は特異な再認証制度になったことも有り努力・費用対効果の程度が低いと感じることも人材確保にマイナス要因かなと思っています。

若手の指導や技術伝承について

「石橋を叩いて・・・」で社内環境を常に整備し続けることが結果として若手の指導や技術伝承に繋がると判断しています。これは現在準備している JSNDI の5番目の支部となる四国支部設立により、弊社旧社屋が講習会場となり更に四国内全域に広げられると考えます。

若手への期待

非破壊検査+αの技術情報が社内に混在していることからこの環境で育った技術者がどのように会社の将来を導いてくれるか楽しみにしています。

ありがとうございました。